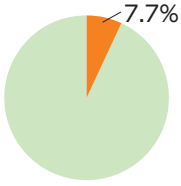
ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う

SDGsの目標5では、女性への差別や暴力をなくし、女性がのびのびと能力を発揮できるような社会の仕組みづくりを、目指しています。具体的な目標が6つあり、その実施手段としてa～cが盛り込まれています。

具体的な目標

1 女性への差別をなくす。
男女が同じく就職して経験を積んでも、女性は男性と同じような役職に到達できない現状があります。

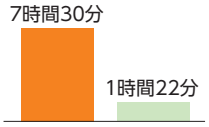


女性管理職の割合※1

2 女性への人身売買、性的搾取、暴力をなくす。
配偶者など身近な人からの暴力や性被害の訴えをあきらめてしまうような司法の現状や、被害者が悪いなどの中傷が日本には残っています。

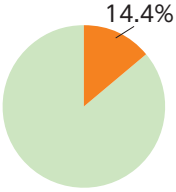
3 早期結婚や女性への有害慣習をなくす。
日本の刑法では「性的同意年齢」は13歳です。この同意年齢は世界的にみても低く※2、年齢の引き上げを求める声があります。

4 家庭内の育児や介護労働を評価する。
家事や育児の負担は男性より女性に重く、介護は女性がやって当たり前といった風潮が、残っています。



6歳未満の子どもを持つ夫婦の1日あたり家事・育児関連時間※3

5 あらゆるレベルの意思決定に女性が参画する。
日本の国会議員に占める女性の割合は14.4%、最も高いルワンダは55.7%、2位のキューバは53.2%です※4。国政に参加する女性が増えれば、女性の声が政治の決定につながります。



国会議員に占める女性の割合※4

6 性と出産に関する健康と権利を守る。
日本の女性の、性と生殖に関しては分娩できる産科のある病院・医院が減少し※5、予期せぬ妊娠を防ぐ72時間ピルは手に入りにくく、不妊治療に対する理解も子どもを持たない生き方への理解も、十分とはいえません。

実施手段

a 女性が土地や財産・相続を自由に管理、売買ができるようにする。

b 女性が技術（ICTなど）を身につける機会を充実させる。

c ジェンダー平等のための法・規則を作る。
ICTといわれる情報通信技術に接し学ぶ機会は、女性より男性の方が多く、有利と言わざるを得ません。家庭のパソコンは夫や子が中心になっていませんか。
また、日本のジェンダー平等を推進するために、より実効性のある法律の整備や政策を進めることが求められています。

＊太字は外務省仮訳を要約しました。※1帝国データバンク2019年／※2NGOヒューマン・ライツ・ナウ調査2018年／※3総務省2016年／※4国際統計データ2021年／※5厚生労働省2019年
（山口）

人権講座 「女性とコロナと貧困と」

目標5 目標10 目標17

令和2年12月に開催された講座。講師の作家・活動家／雨宮処凛（あまみや かりん）氏は、黄色のチェック柄ワンピースで颯爽と現れました。
今回はアイレックサポーターの八代田道子さんが質問をし、雨宮さんが答えるインタビュー形式で進められました。

コロナ禍で何が変わったか

2008年リーマンショック後の年越し派遣村の頃と、明らかに変わったのは、当時ほとんどが男性だった「住まいを失った」という相談が、女性からも来るようになったこと。生活困窮者の中には、外国人も多いです。とにかく、コロナ禍で地味に疲れるのは、国から「困窮では死なせない、大丈夫」というメッセージがない、ということです。
昨年3月、『反貧困ネットワーク』の呼びかけで、30以上の団体で『新型コロナ災害緊急アクション』を立ち上げ、コロナで失業し、住まいを追い出された人などへの支援を始めました。メールでの相談には、生きるか、死ぬかの緊急性が高いケースがたくさん寄せられています。

新しい支援のかたちとその背景

単身女性が失業してアパートを愛犬と共に追い出され、野宿している例もありました。私たちはペット連れの困窮者に特化した支援をする『反貧困犬猫部』を立ち上げました。ともに活動する『つくろい東京ファンド』では、ペットと共に入れるシェルター『ボブハウス』も都内に2部屋を開設しました。ペットと共に住まいを失い、役所に相談に行くと「犬を処分しろ」と言われた人もいます。しかし、ペットは家族の一員であり、生活保護はペットがいても利用することができます。

みんなで支えあう社会を

都庁前広場で毎週、食品提供をし、直接相談を受けている場には、残金13円でネットカフェを追い出された30代男性も来ました。「残金ゼロになるまでどうして助けて、と言わなかったのか？」という問いに、彼は「周りに迷惑をかけたくないから」と答えていました。これって、究極の自己責任論ですよね。
第三波の影響で支援者も疲弊しています。ですが、女性の失業が増える中、女性の自殺が年末以降に増えそうで心配なので、引き続き支援を続けていきます。
（まとめ 山﨑）

生きづらい世を生き抜く作法
雨宮処凛著／あけび書房

編集後記 山﨑 雨宮処凛さんが、質問者に対して真摯で誠実に応答されていた姿が印象的でした。